

# 事務事業評価シート

## 1 基本情報

事業番号		020301010100		事業の種類	4
年度	23	事務事業名	敬老事業	予算事業名	敬老事業
まちづくり目標		みんなが安心して暮らせる絆のあるまち		健康福祉部健康介護課	重要度
施策名(中)		高齢者の生きがいがづくりと社会参加を推進する		担当部局名	健康福祉部健康介護課
取組み事項		生きがいがづくりを推進する		担当課長	小西 まこと
				担当者名	古川 由紀
				実施計画への記載	無
				主要事業の指定	無
実施計画事業名					
根拠法規及び関連法規					
相生市百歳翁(媪)敬彰要綱、相生市敬老祝金支給要綱					
事業の目的	誰のために(具体的に)	最高齢者、最高齢夫婦、百歳到達者、9月15日現在で77歳(喜寿)を迎えた市民、80歳到達者			
	誰(何)を対象として	長寿を祝福する			
	意図(どのような状態にしたいのか)	生きがいを感じてもらう			
事業の全体年度		事業着手年度	(年度)	事業完了予定年度	(年度)

## 2 事業の概要 Do

実施の概要		・市の最高齢者及び最高齢夫婦を祝福。9月に市長訪問、祝品の贈呈(初年度のみ) ・百歳到達者を祝福(市長訪問、祝品贈呈) ・80歳到達者記念写真撮影 ・9月15日現在77歳(喜寿)を迎えた方に祝い金を支給				
活動実績	項目	単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度計画
	最高齢者、最高齢夫婦祝福	件	0	0	1	2
	百歳到達者祝福	件	4	9	11	17
	77歳(喜寿)祝福	件	370	366	305	390
80歳到達者記念写真	件	—	—	921	390	

## 3 投入資源

会計区分		一般会計			事業費単位:円				
インプット指標		21年度決算	22年度決算	前年比	23年度決算	前年比	24年度予算	前年比	備考
人員	部長以上職員	0.025	0.026	104	0.024	92	0.026	108	
	参事以下職員	0.191	0.191	100	0.434	227	0.335	77	
	臨時職員	0.000	0.000	—	0.080	—	0.080	100	
支出内訳	人件費	1,763,208	1,762,908	100	3,929,574	223	3,079,610	78	
	事業費	3,889,466	4,057,507	104	6,978,673	172	6,639,000	95	
	合計	5,652,674	5,820,415	103	10,908,247	187	9,718,610	89	
財源内訳	国庫支出金			—		—		—	
	県支出金			—		—		—	
	市債			—		—		—	
	その他			—		—		—	
	一般財源	5,652,674	5,820,451	103	10,908,247	187	9,718,610	89	
合計	5,652,674	5,820,415	103	10,908,247	187	9,718,610	89		

## ※ 事業の進捗状況

項目		21年度	22年度	23年度	24年度	/
全体進捗率	事業費累計					
	進捗率					

## 4 評価指標

【有効性】

指標名1		80歳到達者記念写真撮影者数							
指標説明(式)		80歳到達者記念写真撮影者数(H23年度はH18~H23年度に80歳になった方が対象)							
指標単位	区分	21年度	22年度	前年比	23年度	前年比	24年度(計画)	前年比	備考
人	目標			—	1,600	—	360	22.5	
	実績	—	—	—	921	—			
指標名2		喜寿祝支給件数							
指標説明(式)		喜寿(77歳)祝支給件数							
指標単位	区分	21年度	22年度	前年比	23年度	前年比	24年度(計画)	前年比	備考
人	目標	370	366	98.9	305	83.3	390	127.9	
	実績	370	366	98.9	305	83.3			

【効率性】

指標名1		祝福1件当たりの事業費コスト							
指標説明(式)		事業費/延件数(実績)							
指標単位	区分	21年度	22年度	前年比	23年度	前年比	24年度(計画)	前年比	備考
円	目標			-		-	12,678	-	
	実績			-	8,808	-			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	21年度	22年度	前年比	23年度	前年比	24年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-			

5 事業の評価(23年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	担当課評価
妥当性	目的の妥当性	長寿の祝いの一つの生きがいであり、百歳や最高齢者、最高齢夫婦などを迎えられる方は限られており、それを祝福することは社会的に妥当性が認められる	4
	市民ニーズ	対象者とその家族からは大変喜ばれておりニーズは高い	
有効性	市民サービス	核家族化や地域共同体の希薄化等により、長寿を祝ってもらう機会のない高齢者も増加している。行政が祝福する意義はあると考える	3
	上位施策への貢献度	敬老事業の機会に高齢者の在住確認が出来る	
効率性	コストの節減	H17の88歳(米寿)の支給の廃止、H18の99歳(白寿)の支給廃止により、支給コストは低減したが、80歳到達記念写真の復活により増。今後、各敬老事業の継続について検討する必要がある	3
	手段の最適性	市長が訪問し直接祝うなど、敬老の思いを感じてもらうことができています	
進捗状況	事業計画に対する進捗状況	概ね計画通り	4

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	コストの節減	百歳の祝い品の金額(五万円相当)を検討する余地はあるが、他の敬老事業とのバランスに考慮が必要

7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた24年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	コストの節減	百歳の祝い品の金額(五万円相当)を検討



配点	32.5
総合評価	22